

2023年度第1回日本学連幹事会議事録

【日程】 2023年6月10日(土) 20:30 ~ 23:30

【開催場所】 ホテルファミテック明神での現地開催
オンライン参加も可として、zoomを併用した。

【議事録作成者】 鎌倉京平(筑波大学)、西澤汰知(東北大学)、島田智也 (名古屋大学)

【目次】

1.学連登録・中断申請について.....	3
2.UNIVASについて.....	4
3.渉外問題について.....	5
4.競技者登録数を眺める.....	7
5.春インカレ幹旋問題(今年度宿形態について).....	7
6.部局報告.....	9

2023年度第1回日本学連幹事会議事録

出席者（敬称略）

氏名	役職	学校名
山川 克則	副会長	東京大学卒
木村 佳司	理事	山口大学卒
谷野 文史	理事	筑波大学卒
田中 基成	理事	筑波大学卒
根本 啓介	理事	筑波大学卒
浴本 悠貴	前幹事長	神戸大学卒
市川 竣介	幹事長	筑波大学
大石 遥	副幹事長	新潟大学
桑原 唯歩	会計監査	横浜国立大学
岩崎 壮馬	会計監査	大阪大学
徳力 雅哉	事務局長	立命館大学
川瀬 智尋	事務局員	奈良女子大学
宮川 葵衣	普及部長	東京理科大学
石塚 陽広	普及部員	大阪大学
坂本 拓登	普及部員	北海道大学
森 創之介	事業部長	横浜国立大学
鷺津 加子	渉外部長	東北大学
鎌倉 京平	広報部長	筑波大学
島田 智也	広報部員	名古屋大学
西澤 汰知	広報部員	東北大学
柴崎 愛有	技術委員会	新潟大学
千葉 望央	北東学連幹事長	宮城学院女子大学
市川 優人	関東学連幹事長	早稲田大学
舘 直輝	東海学連幹事長	名古屋大学
一戸 厚志	中九四学連幹事長	広島大学

1. 学連登録・中断申請について

徳力：加盟登録の申請は概ね承認済みである。

新人がまだ申請できていないところは8/31まで新規登録を受付けている。

- ・削除申請について
岩手大学の村山、神戸大学の竹内の今年度の中断解除申請については対応済みである。
- ・今年度の中断申請について
一橋大学の小島、大阪大学の青山はともに幹事会が承認している。
- ・JOA競技者登録済みの新人について
関東、関西から報告は受取済みである。
- ・領収書について
東京理科大より領収書をいただきたいと連絡があった。

- ・加盟費の確認について（会計部、地区学連）
関東学連は東工大の新人4人分のみ未納である。
東海学連は現時点の申請分は全て納入済みである。
北信越学連は後日確認する。
関西学連は京大13人、京女1人、神戸高専1人、同志社2人、京都工繊1人、龍谷1人が未確認である。
また、3000円で振り込まれているため一人1000円分返金。

千葉大学の新人で27歳以上の方がおり、規約にのっとり加盟申請を却下したが、規約の内容について意見があったため現在保留している。

根本：27歳以上が学連登録を上限としていたのは、ユニバー（世界大会）の参加基準に合わせていた。必ずしもユニバーに合わせる必要はないので、千葉大の方の学連登録を却下するためにはそれ相応のロジックが必要。メリット・デメリットを洗い出したうえで議論したい。

木村：昔はそんな制約はなかった。インカレ出場時のみであった。
曖昧ではあるが遠藤氏の改革によるものではないか。今は学連登録＝競技者登録という形でやっている。昔はインカレも一般クラスは競技者登録がなくても出られたため。

徳力：新人登録であるため、インカレのWEにかかわってこないのであれば、今年中にどのように対応するか決めたい。

木村：インカレ出場にかかわると思う。例えば、30歳の学生が優勝したらそれを認められるのか、という話であると思う。27歳制限はエリートにはあるが、27歳以上でもオリエンテーリング経験者が大学生になることはできる。そういう選手をチャンピオンとして認められるかどうかという点が問題である。

田中：これは私が現役の時の議論であった。かつて競技者であった50歳の学生を学連加盟員として認めるのかということで議論になった。

学連は学生のためにあるべきであるため、ユニバ基準の27歳にした。
1人例外があるとそれを許可するというのは慎重になった方がいい。

根本：日本学連として厳格な理念を示して回答することが良いと思う。
理事の稲田さん主導で日学の理念を定めていってくださるということであるので、今後日学としても理念を定めていくべきであると思う。

木村：当座の解答はどうするか。

根本：それ相応の理由をこの場ではなく、後に回答する。
一旦この場で対応を決めてしまって、のちに日学として回答を出す。

徳力：27歳を継続するべきと考えるので、この方針で進めていきたい。

坂本：連絡をくれた千葉大学の人は、学連登録をしたい明確な理由はあるのか。

根本：27歳以上の新入部員が加入したが登録を行いたい、という内容のみ聞いている。

2. UNIVASについて

徳力：日本学連はUNIVASの「お知らせ」機能を使って情報を発信してきたが、my UNIVASを登録していない学生が多く、重要な連絡を見逃してしまうということが見られた。また、自身で見れない人から各校渉外へ問い合わせが相次ぎ、負担が増えていた。そこで、日本学連のメンバー→地区学連の幹事、渉外→各大学の部員というように段階的に登録を進めている。
後に地区学連幹事長に確認する予定である。
また、UNIVASの連携システムは、地区学連がその地区の大学の親組織、日本学連が地区学連の親組織となっており、親組織は小組織の管理、お知らせの発信が可能である。幹事の皆さんは、ぜひ使い方を把握しておいてほしい。

市川（竣）：例えば関東学連が、関東学連加盟員に向けて情報発信することができるということである。
UNIVASのみで地区学連、日本学連からのお知らせを見ることができる。

徳力：UNIVASはお知らせのみなので、質問等は各学連にすること。

谷野：大学スポーツ協会とは4年程の付き合いである。UNIVASとの今年の関わりについて説明したい。
大学スポーツ協会は日本の大学スポーツを統括する団体である。インカレの配信や保険についてもUNIVAS経由で行っている。
映像配信事業では今年かけられるお金は少ないが運営と協力して何かしらの形で行う

予定である。

UNIVASのプラットフォームを利用して、動画などを作成したら掲載できるため、主に広報部でそのようなものがあれば利用してほしい。

現在オリエンテーリングとは何か、についての動画がのっている。

医療従事者派遣制度も行っている。法務相談窓口で、大学内のトラブルを相談できる。表彰事業、頑張った選手を表彰する活動もしている。オリエンテーリングからはまだ選出もされていないが今後行っていきたい。

浴本：補足であるが、ユニバスSSCについては主に澤橋さんと協力して動き始めている。

谷野：フォトギャラリーでカメラマンが撮影した映像を配信している。各大学の新歓などでも使える。使う上で申請が必要なので注意が必要である。様々なセミナーも行っている。

市川（竣）：医療従事者派遣制度は今年度も派遣予定か、セーフティーネットも予定しているのか。

谷野：実行委員会と調整しながら行っていく。

市川：法務相談窓口は日学単位か各校単位か。

谷野：法務相談窓口は日学単位である。日学単位で申請している。渉外問題などについても対応可能である。

市川：日学に相談してもらえれば対応できる事を地区学連の方に共有していく。

3. 渉外問題について

鷺津：所野地区の自治会長様からご連絡いただいたので共有する。

山の所有者の方から、路肩駐車や複数人がたむろしていることに関してご指摘があった(日光の善法地区)。そこで、自治会長様から、奉仕活動(年一に不法投棄を回収するなど)をしたら回覧書に書いて回せるのではないかとのご提案をいただいた。他のトレインでも起こりうる話なのでトレイン利用者に利用マナーについて注意喚起を行いたい。ひとまず現状報告とする。

普及部のマナー教育と合わせて行っていく。

山川：当事者との打ち合わせを行い、木曜日に訪問して話が進んだ。一つ目の問題については大した問題ではない。

山を持っている方から、不法投棄が多いが人手がないため、利用しているオリエンテーリングの人がやっていただきたいと話があった。トラックや道具は用意してあるとのことである。ぜひやりたいということで話をした。

所野はインカレクローズであるが、不法投棄の件はほぼ影響はないと考えている。

土曜あたりに、協力してくれた人へ何か企画して行いたい。セッティングし次第公募

したい。

谷野：クレームについてはあったという認識で正しいか。
どのトレインにおいてもマナー講習は必ず必要である。現在ある資料をHPへの掲載など周知を進めていきたい。
イベントに関しては、周囲を巻き込みつつ山川さん1人で動かず共有していただきたい。

市川（竣）：学生にとってメリットがなくデメリットしかない状況になってはいないか。い
いように利用されてはいないか。

谷野：トレイン使ってるので、ボランティアを行うのは正しいと思う。栃木県協会と併催で
あるか。

山川：栃木県協会と併催である。

谷野：栃木県協会主導ではなく、日本学連として進めていきたいということを周知して行う
べきである。

山川：森林整備の部分についても関わっていけばよいと考えている。

田中：現在するべきことは山川さんから期限と必要人員を聞き出すことのみである。

山川：所野所有者からの段取り待ちである。

谷野：トレインクローズについても関係する内容であるので、慎重に行いたい。

市川（竣）：渉外部メインで進めてほしい。学生側のメリットがないと学生も動かないと思
うので今後検討していく。たむろしているということに関しては、地元の方の
中で特段問題になっていないという認識で正しいか。

山川：正しい。マナーブックの普及などで対策していきたい。

宮川：今月、マナーブックで渉外問題のページに所野の事例についてまとめたい。

市川（竣）：普及部チャンネルにマナーブックをあげてもらい、山川さんらの確認をもら
う。マナーブックに関しては6月末までに対応してほしい。

4. 競技者登録数を眺める

谷野：自分の組織の状況は把握しておくべきである。勉強のために学連登録者数を見ていきたい。

現在はコロナの影響で4年が少ない状態である。

各都道府県で比べてみる。色が濃い方が多い。静岡、阪神もう少し頑張ってもらいたい。各大学加盟員数の内訳についても示す。

鎌倉：日学のHPに凡例などをつけて、これらのグラフをあげたい。

5. 春インカレ幹旋問題（今年度宿形態について）

市川（竣）：今年度の宿泊幹旋については5月に日本旅行小林さんと今年度の宿泊幹旋について話をした。今年度はトレイン周辺の宿泊業の都合を踏まえると、今年度の宿泊幹旋は「全員旅館」or「旅館またはビジホを選択できる」どちらでも対応できるとのことだった。

今年度の宿泊幹旋について、「全員旅館」or「旅館またはビジホを選択できる」どちらが適切か、幹事から意見を募集して双方のメリットデメリットを考えたい。それらを踏まえたうえで、総会に投票をしてもらうのが妥当な流れであるかも議論したい。

メリットとデメリットについて説明する。

全員旅館の場合、コロナ禍のような一人一部屋制限がないのであれば、ビジホである必要性は薄い。また、旅館の格差をなくすることができる。さらに、昨年度のようなビジホと旅館の格差による不満をなくせる。

旅館またはビジホを選択できる場合、春インカレは値段の高さが課題となっているのだから、ビジホの選択肢を残しておく方が適切である。この選択肢があるかないかで春インカレに行くか行かないかにつながるかもしれないが、自分の大学として納得した選択肢を選ぶよう注意の呼びかけは必要である。

浴本：コロナ禍のような一人一部屋制限がない、と書いたが、横浜市立大学はこの制限が残っているということであった。

森：今年になっても大学の規制が厳しく、合宿などはできていない。3月までには緩くなると思っている。

今現在はビジネスホテルなどの一人部屋ならば泊まれる。

市川（竣）：各校が旅館またはビジネスホテルに泊まるかは、総会を開くほどではないと思うのでグーグルフォームを作ろうと考えている。

根本：日本旅行の回答では、ビジホのほうが安くない場合があるという話であった。1人部屋規制がある大学はビジホ、そうでなければ日本旅行に任せるという判断でいいのではないか。一人部屋の規制があるかどうか。

浴本：ビジネスホテルのほうが高いと分かるのは春インカレの要項2ぐらいのときである。その時に各校に判断をゆだねるのもよいのではないか。

市川（竣）：1人部屋規制のある大学がなければビジホの選択肢をなくしてもいい？と思っている。

根本：ビジホには団体予約で安くなるというシステムがないため、インカレの宿に関してはビジホが必ずしも安くはならない。

市川（竣）：ひとまず、一人部屋の規制がある大学が存在するかどうかを把握する必要がある。全員が旅館にするならば、ビジネスホテルのほうが高くなる理由（見積書）を明確に提示するべきである。見積書を小林さんに出してもらおう。各校にグーグルフォームの回答をもらおう。この話は9月頭までに回答してもらおう。ビジホの方が安いと考えている層はある程度いるはず。

根本：参加するかどうかは参加者が決めるので、今年度どうするかは決定した後で、総会で報告する形でよいと思う

市川：7月中に見積書をもらえれば。

浴本：正確な見積もりは現時点で出せるのか。

根本：出ないが、参考程度でよいと思う。

浴本：いつ頃出してもらうのがベストか。なるべく早くだしてもらうのがいいか。

根本：どのような宿泊形態になったとしても、実現しなかった見積もりをあらかじめ提示することで、来年以降の改善点や学生の納得が得られる。

市川：どのパターンの見積もりを出してもらうかはまた相談する。

浴本：北大のみ宿泊自由化になったことはちゃんと各校に伝わっているのか。

根本：日本学連側が決定事項をまとめて流せば、食い違いなどがないと思う。

谷野：年度初めに総会のルールを正確にまとめ、周知していくことが大事である。

市川：前回の総会の結果に関してはUNIVASと地区学連経由で周知する。

6.部局報告

詳細については資料を参照のこと。

・ 幹事長について

根本：幹事長報告について質問。JOA競技者登録費徴収について期限はいつなのか。JOYの改修との兼ね合いがある。

市川：9月までに行う。

・ 事業部について

森：日学の後援については6か月前に申請という規約があるが、それを無視してもいいか。日程を調整するにあたって6か月前では難しい。日学が依頼しているのにもかかわらず後援申請を書かせるのは申し訳ない。

市川：日学側から自動後援することを明示する。

森：来年度以降コンスタントにできるかもわからないので規則に加えるよりも今年だけの特例にしてもいいのでは。

浴本：規約では幹事会が承認すれば後援にできるということになっている。

市川（竣）：キャンパスツアーの事業書に、自動的に日学の後援が得られる旨を記載することについて投票する。
出席している幹事10人全員の賛成が得られたため、日学の後援とする。

・ 普及部について

鎌倉：「みちしるべ」について、OBの持ち込みから始まった企画であるが、現在日本学連として進めているのか、OBの方主導で進めている事業なのか明確でない。どの部局が主導するかなど立ち位置を明確にしたい。

以上で2023年度第1回幹事会を終了とする。